



# 木曽林務課だより 6月

木曽地域は、令和2年の豪雨で多くの山地災害が発生し現在も治山事業等で復旧を進めていますが、こうした災害発生状況の把握に活躍するドローンの操作研修会を行った様子を紹介します。

## 「鳥の目になって空から確認」ドローン操作研修会

林務課では梅雨時期に合わせて、山地災害防止キャンペーンを実施していて、その取組の一つとして、木曽管内町村職員の皆さんを対象にドローン操作研修会を実施しました。

ドローンは、これまでの林務課だよりでも紹介したように山地災害発生時に上空から現場の全体像や、崩落の危険があり人が近づきにくい現場の様子の確認等と活用の方が広がっており、災害発生時の初動で現場に入られる町村職員の皆さんにも大きな武器になってくる機材です。

長野県林業大学校の教授を講師として、まず屋内で航空法で決められたドローンの飛行ルールの講義のあと、前進・転回・写真撮影など基本的な操作方法を実習しました。

ラジコン経験者の方が多かったためか、皆さん基本操作はスイスイできていました。

屋内で慣れたら、実際に屋外でドローンを飛ばしてみました。最初は恐る恐るでしたが、リモコンで自由に操作できていました。



まず飛行のルールを  
しっかり確認



意外と簡単



慣れてくるとドンドン  
高くまで



鳥になった気分！（町村職員撮影）

町村でもドローンの使用で、降雨後、土砂流出の危険がある場所に足を踏み入れずに状況を確認できれば、町村の山地災害の初動対応の強化につながってくれることに期待大です。